



歩くという哲学

— フレデリック・グロをめぐって —

鼎談

谷口亜沙子×重田園江×池田喬

2026年1月9日（金）17:30-19:30

明治大学駿河台キャンパス

グローバルフロント1階 グローバルホール

（予約不要・参加無料）

詩人、哲学者、思想家たちは、もしかすると考えるのに匹敵するくらい、歩いてきた。澆刺と山を登り、とぼとぼと街路を彷徨い、抗議のために目抜き通りを行進する。フーコー研究者として知られるフレデリック・グロは「歩くことはスポーツではない」という宣言から、『歩くという哲学』（山と渓谷社、2025年）を開始する。「歩くこと」には、自由な生き方、世界とのかかわり方、希望あるいは絶望も含まれる。息づかいが聞こえてきそうなリズミカルな文体に引き込まれ、同時に、書をおいて歩き出したくなる。

本鼎談には、本書の翻訳を手がけたフランス文学者の谷口亜沙子氏、そして近著『シン・アナキズム』を上梓した、フーコー研究者の重田園江氏を迎える。

今日、歩くことはそれ自体アナキックな行為である — これを一つの起点として、詩と哲学、哲学と政治、政治と詩をつなぐ本書の面白さ、重要性、そして実生活へのインパクトを語り合いたい。

企画・池田喬

略歴

◇ 谷口亜沙子 明治大学文学部教授。フランス文学。単著に『ジョゼフ・シマ』（水声社、2011年）、翻訳にフローベール『三つの物語』（光文社古典新訳文庫、2018年）、グロ『歩くという哲学』（山と渓谷社、2025年）など。

◇ 重田園江 明治大学政経学部教授。政治思想史・現代思想。『フーコーの風向き：近代国家の系譜学』（青土社、2020年）、『シン・アナキズム：世直し思想家列伝』（NHK出版、2025年）など。

◇ 池田喬 明治大学文学部教授。現代哲学・倫理学。単著に『ハイデガー『存在と時間』を解き明かす』（NHKブックス、2021年）、『嘘をつくとはどういうことか』（ちくまプリマー新書、2025年）など。

会場アクセスマップ https://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/access.html
主催：明治大学文学部文学科フランス文学専攻、心理社会学科哲学専攻、MIPs (Meiji Institute of Philosophies)